



立教英国学院

2023年度第1学期終業礼拝式次第

2023年7月8日(土)午前10時30分

司式 司祭 パウロ 眞野 玄範
司会 教頭 今多 学

○聖 歌 327番 (入堂)

○聖 語

司式者 主よ、私たちの口を開いてください
一同 わたしたちは、主の誉れを現わします
司式者 栄光は父と子と聖霊に
一同 初めのように今も世々に限りなく アーメン

○詩 篇 第25編

司式者 主よ、あなたの道を示し//その道筋を教えてください
会 衆 真理の内に私を教え導いてください//あなたは私の救い、いつの日も、わたしはあなたを待ち望む
司式者 主よ、あなたの憐れみと慈しみを思い出してください//それは昔から変わらないもの
会 衆 若いときの罪と過ちに心を留めず //慈しみ深くわたしを思い出してください
司式者 主は憐れみ深く正しい方//罪人に道を示される
会 衆 神は貧しい人を正義に導き//へりくだる人にその道を授けられる
司式者 契約と論しを守る人に//主の道筋は慈しみとまことに溢れる
司式者 栄光は父と子と聖霊に
一同 初めのように、今も世々に限りなく アーメン

○聖 書 ヨハネによる福音書 1章9～14節 H3-1 橋本 康平

○勸 話

○主の祈り 天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救い下さい。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

○校歌斉唱

○表 彰

○立教英国学院特祷

真理と愛の源であり、すべての人の造り主、万民の父である全能の神よ。わたしたちが常に正しい理想(ねがい)を失うことなく、知恵と一致を得るのは、ただあなたの恵みにほかにありません。どうか、み名によって建てられた立教英国学院を見守り、その全ての行いを祝福し導きのみ手を差しのべ、ますます学院の徳を確かなものとし、常に変わる事のない主の栄光を輝かすことが出来ますように。また、教える者と学ぶ者とを祝福し、共に知識を深め、主の真理と愛とを悟らせ、常に謙遜の心を抱いて、唯一の父である主を仰ぎ、互いにいたわり、互いに励まし合うことが出来ますように。み子、わたしたちの救い主イエス・キリストによってお願いいたします。

○諸 祈 祷

○聖 歌 282番 (退堂)

【聖歌 327】

1. ちよろずの使い み座の前に
声 うち合わせて イエスを歌えば
われらもひとしく 喜びたたえん
2. 死にし小羊の いさおをほむる
み使いに応え われらも歌う
わが主はわれらの ために死ねりと
3. 誉れと栄えは ただイエスにあれ
知恵と力とを いかにか たたえん
ひたすら み前に ひれ伏しおがめ
4. 人も み使いも よろずのものも
み座にまします 天つ み神と
小羊 イエスとを 永遠にたたえよ

【聖歌 282】

1. 罪に苦しむ 叫びを聞いた
わたしは民を救おう
闇の世界を 照らし輝く
神の光を伝えよ

(おりかえし)
あなたに呼ばれて わたしは歩みます
わたしをこの世に 遣わしてください
2. 民の痛みに 涙を流し
わたしは語り続ける
石の心を 愛でうるおす
神の言葉を伝えよ

(おりかえし)
3. 貧しい人を わたしは見つめ
祝いの席に招こう
すべてを満たす 尊いパンで
神の命を与えよ

(おりかえし)

聖書朗読：橋本康平(H3-1)

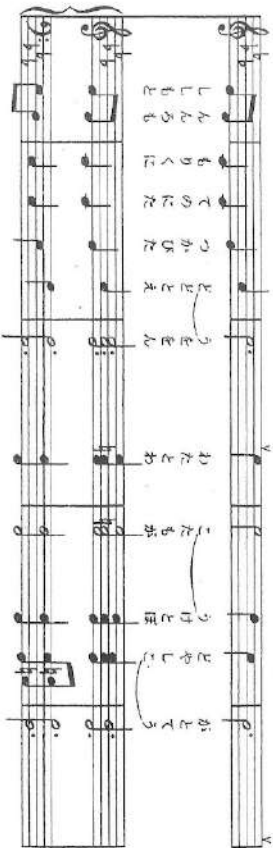
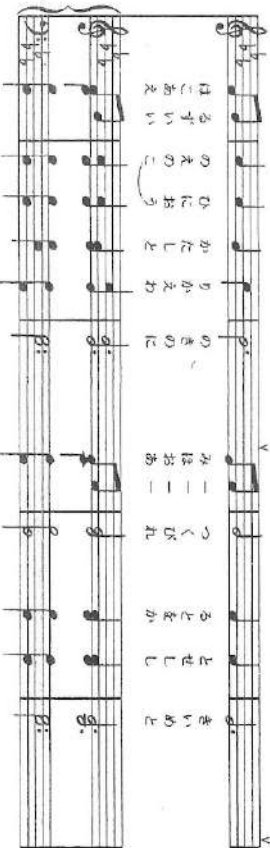
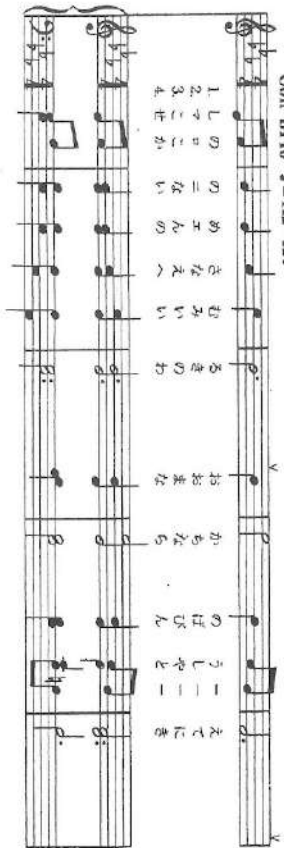
奏楽：前田思実(H3-1)

献花：上野真優(H3-2) 西村咲希(H3-1) 澤井美歩(H2-1)

立教英国学院 校歌

縣 康 作詩
波多野春子 作曲

Con brio J = 112-126



校歌

作詞 縣 康

1. 東雲さむる丘の上 春の光のみつるとき
信もて集う若人が 呼ぶや希望と愛のうた
2. フロニエ並木落葉して 梢に高き北斗星
真理の門を叩けやと ささやく如く またたきぬ
3. ここ南英の学び舎に 愛の訓えの帯をしめ
もろ国人を友として 行くべき道を究めなん
4. 世界の平和成らんとき 榮光とわにあれかしと
ともにたたえんわが母校 立教英国学院を

1. 詩篇57及び108 2. Pallinghurst Hill というこの地名 3. 信仰と希望と愛と(コリント前十三章) 4. 門を叩けさらば開かれん(マタイ傳七章) 5. 第三節は国際人を日ざすために。6. 愛は徳を全うする帯(コロサイ書三章) 7. 地には平和(ルカ傳二章) 幸なるかな平和をならしむる者(マタイ傳五章) 以上の精神をこめて歌詞は作られた。

The following is a translation of the School Song of Rikkyo School in England, each verse rendered in the same 7-5-7-5 syllable pattern as the original Japanese.

1. Atop our hill, dawn's breaking:
Let us greet the sun
All the world now seems bathed in
The fresh Light of Spring.
Voices young are raised in song,
In truth hearts are one-
Ever seeking faith and hope,
And love, above all.
2. The chestnut trees in a row,
Autumn's falling leaves-
High above the tree-tops there
The North Star shines bright.
Is it whispering to us now,
Twinkling all the while?
"Knock ye at the Gate of Truth:
Opened it shall be."
3. Here in Southern England stands,
'Midst the hills, our school.
Day by day 'tis guiding us
With precepts of love;
And binding us in friendship
With men of all lands-
To search and find together
The way we should go.
4. Then when peace does truly come
To our world at last,
Glory be in the highest
To God forever!
Then too we'll sing praises to
Our Alma Mater.
To Rikkyo School in England
Our hearts will be true.

By Gene S. Lehman
Rikkyo University